

モクズガニ



分類：エビ目^{もく}モクズガニ科^か

特徴：甲長^{とくちよう こうちよう}は10-75mm。サワガニよりも脚^{あし}が長いカニです。大きく成長し、ハサミに細かな毛がたくさん生えます。この毛は、オスにもメスにもあります。毛が生えていない小さいモクズガニは、脚^{あし}の長さでサワガニと見分けることができます。

生態：川にすみます。河口^{せいたい}で卵^{かこう たまご}を産み、成長しながら川をさかのぼります。成長したモクズガニは、卵を産むため、秋に川^{くだ}を下ります。

生息状況^{じょうききょう}の変化：前回と今回を比べると、特に変化はありません。見つかる場所も数も多いです。島根半島では、日本海に流れ込む川で多くみつかりますが、宍道湖^{しんじこ}など出雲平野側にもすんでいます。

タイワンヒライソモドキ



分類：エビ目モクズガニ科

特徴：甲長は7-10mm。甲羅は赤茶色や焦げ茶色をしています。背中中は平らで、縁にトゲはほとんどありません。小さなサワガニに似ていますが、サワガニよりも大きくなることはありません。

生態：島根半島では、主に河口で見つかっています。昼間は石の下に隠れていることが多いです。台湾で発見されたカニで、日本よりも南の地域にも分布しています。

生息状況の変化：日本海では、2009年に島根半島で初めて見つかったカニです。その後、隠岐も含めて山陰地方の海岸に広くすんでいることがわかりました。今回の調査でも、島根半島の川の河口にすんでいることが確認できました。

フタスジモンカゲロウ



分類：カゲロウ目^{もく}モンカゲロウ科^か

特徴：とくちょう 体長は10-20mm。大アゴが頭の前に^つ突き出ています。体は細長く、腹部^{ふくぶ}には、細かな毛のようなエラがあり、背中側^{せなかがわ}に黒い線のような模様^{もよう}があります。尾は3本です。体をくねらせて、よく泳ぎます。カゲロウの仲間^{ふかんぜんへんたい}は、サナギにならない不完全変態^{※1}の昆虫^{こんちゅう}です。

生態：せいたい 川の上流に多くすむカゲロウです。水が少ない場所でも見つかります。大アゴで川底に穴^{あな}を掘^ほって、その中にすんでいます。成虫は夏から秋まで見られます。

生息状況の変化：じょうきよう 前回と今回^{くら}を比べると、特に変化はありません。見つかる場所も数も多いです。

※1 不完全変態^{ふかんぜんへんたい}：幼虫^{ようちゅう}から成虫になる間に、サナギにならない昆虫^{こんちゅう}。

ヤマトカワゲラ



もく か
分類：カワゲラ目カワゲラ科

とくちょう
特徴：体長は10-20mm。体はオレンジ色で、目立った模様もようはありません。

しゅっかく
触角と2本の尾は、ほとんど同じ長さです。幼虫ようちゅうは肉食で、小さな生きもの
つか
を捕まえて食べます。カワゲラの仲間は、サナギにならない不完全変態の
こんちゅう
昆虫です。

せいたい
生態：島根半島では、川の上流にすんでいます。水が少ない川にもいます。

石が多く、落ち葉がたまっているような場所で見つかります。成虫は、夏
あらわ
に現れます。

じょうぎょう
生息状況の変化：前回と今回を比べると、特に変化はありません。

ナガレカタビロアメンボ



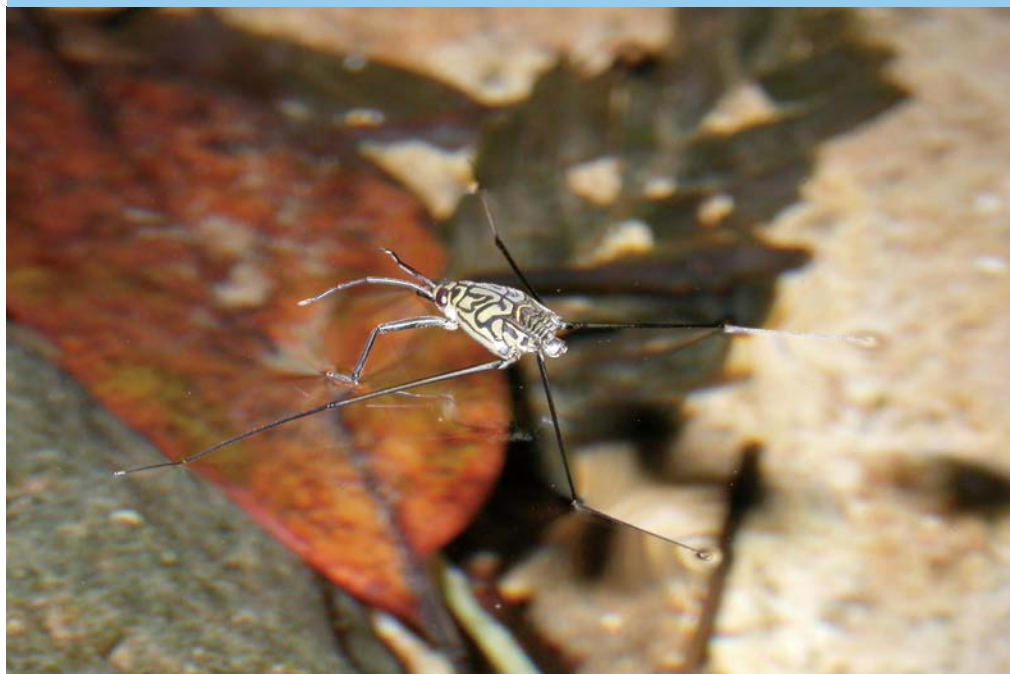
分類：カメムシ^{もく}目カタビロ^かアメンボ科

特徴：とくちょう 体長は2-3mm。とても小さな昆虫^{こんちゅう}です。せなか 背中^{せなか}にはとても細かな毛がびっしりと生えていて、水をはじくことができます。成虫になっても羽が生えていないことが多いのですが、羽がある成虫もあります。

生態：せいたい 川の上流から下流まで広くすんでいます。水面の上を歩くことができます。水の流れ^{ゆる}が緩い場所に、群^むれでいることが多いです。アメンボと同じように、水面に落ちた小さな昆虫^{こんちゅう}などをつか^{つか}まえて食べます。

生息状況^{じょうききょう}の変化：前回と今回を比べると、特に変化はありません。見つかる場所も数も多いです。

シマアメンボ



分類：カメムシ^{もく}目^かアメンボ科

特徴：体長は10-16mm。アメンボの仲間ですが、体はとても短いです。よく見るアメンボとは、腹部^{ふくぶ}の長さが違います。背中^{せなか}にはシマ模様^{もよう}があります。成虫になっても羽が無いことが多いのですが、たまに羽のある成虫もいます。水面に落ちた昆虫^{こんちゅう}などを捕^{つか}まえて食べます。

生態：島根半島では、ほとんどの川で見ることができます。山に囲まれた川に多くすんでいます。川の中では、流れの緩^{ゆる}い場所にいます。

生息状況^{じょうきよう}の変化：前回と今回を比べると、特に変化はありません。見つかる場所も数も多いです。

ヘビトンボ



分類：ヘビトンボ^{もく}目ヘビトンボ^か科

特徴：体長は10-60mm。頭と前胸^{まえむね}は赤色で、それ以外の部分は灰色をしています。頭には大きな大アゴがあります。腹部^{ふくぶ}の横には、細かい毛のようなエラ^{ようちゅう}があります。幼虫は水の中にすんでいます。成虫は陸上にすんでいます。サナギ^{かんぜんへんたい※1}になる完全変態の昆虫で、成虫は夏^{あらか}に現れます。

生態：島根半島の川では多い種です。山に囲^{かこ}まれた、水温の冷たい川にすみます。幼虫^{ようちゅう}は、石の下にもぐっていることが多いです。

生息状況の変化：前回と今回を比べると、特に変化はありません。見つかる場所も数も多いです。

※1 完全変態^{かんぜんへんたい}：幼虫^{ようちゅう}から成虫^{こんちゅう}になる間に、サナギになる昆虫。

ミズスマシ



分類：コウチュウ目^{もく}ミズスマシ科^か

特徴：体長は6-7mm。体は小さく、だ円形をしています。背^せ中^{なか}は黒く、強い光沢^{こうたく}があります。目^めが背^せ中^{なか}側^{がわ}と腹^{はら}側^{がわ}に分かれていて、水面よりも上と水中を同時に見ることができます。

生態：川や池にすみます。水面に浮いていて、くるくると回りながら泳ぎます。水面に落ちた昆虫^{こんちゅう}などを捕^{つか}まえて食べます。おどろくと、水の中にもぐります。

生息状況^{じょうききょう}の変化：前^{ぜん}回^{かい}の調査^{ちようさ}では、たくさんの成虫^{せいちゅう}が見られた川^ががありましたが、今回^{こんかい}の調査^{ちようさ}では確認^{かくにん}できませんでした。ミズスマシの仲間^{なかつま}は、全国的^{こくごうてき}にとっても減^へっていて、島根半島^{しまねはんとう}の川^がでも少^{すく}なくなっているようです。

オガタツヤヒラタガムシ



分類：もく か
コウチュウ目ガムシ科

特徴：とくちょう 体長は2mm。とても小さなガムシです。体は黒色や赤茶色をしています。せなか も はらがわ はらがわ
背中側は丸く盛り上がりますが、腹側は平らです。腹側には細かな毛がたくさん生えています。よく似た種にツヤヒラタガムシがいます。

生態：せいたい 石が多い小さな川にすんでいます。川辺の石の下にもぐっていることが多く、石を動かすと、たくさんの成虫が浮いてくることがあります。

春に石の下に小さな卵を産みます。

生息状況の変化：じょうきょう 2016年に、しんしゅ 新種として発表されたすいせいこうちゅう 水生甲虫です。前回のちょうさ 調査の時はまだ知られていないこんちゅう 昆虫でした。今回のちょうさ 調査で、日本海側に流れる川にすんでいることがかくにん 確認されました。

ムナビロツヤドロムシ



分類：コウチュウ目^{もく}ドロムシ科^か

特徴：体長は4mm。体はだ円形で、長い脚^{あし}があります。体の色は黒いですが、背中^{せなか}や腹側^{はらがわ}に水をはじく毛がたくさん生えていて、水の中にいる時には金色や銀色の模様^{もよう}があるように見えます。

生態：水^{みづ}辺に草が生えている川にすみます。たまに池でも見つかることがあります。水生甲虫^{すいせいこうちゅう}の仲間ですが、泳ぐことはできず、するどい爪^{つめ}で石などにつかまって水中を歩くことができます。川辺の水草や草の根の中から、たくさんの成虫が見つかることがあります。

生息状況の変化：前回^{じょうきよう}と今回^{くら}を比べると、特に変化はありません。見つかる場所も数も多いです。

サンインヒメツヤドロムシ



分類：コウチュウ目^{もく}ヒメドロムシ科^か

特徴：とくちょう 体長は2mm。とても小さな昆虫^{こんちゅう}です。羽の色は黒色と赤色がいます。脚^{あし}の色はオレンジ色です。ヒメドロムシの仲間の成虫は、泳ぐことができず、^{すゐど つめ}鋭い爪で川底の石の上などを歩きまわります。

生態：せいたい 川や水路など、流れのある場所にすみます。石の多い場所を好みますが、水草が生えている場所にもいます。川の上流^{ようちゅう}や大きな川では見つかりません。幼虫も川底にすんでいます。

生息状況の変化：じょうきよう 2015年に新種^{しんしゅ}として発表された水生甲虫^{すいせいこうちゅう}です。隠岐^{おき}や山陰^{さん}地方に広く生息していることがわかりました。今回の調査^{ちようさ}でも、いくつかの川^かにすんでいることが確認^{かくにん}されました。

カワムツ



分類：^{もく}コイ目^かコイ科

特徴：^{とくちょう}体長は2-25cm。島根半島の川では体長5-15cmほどの魚が多い。
成長すると、体の横側に縦方向の黒色の線が見えます。オスは繁殖期になると、アゴの下などがオレンジ色に変化します。

生態：^{せいたい}島根半島では、ほとんどの川にすんでいる魚です。よく似た魚にオイカワがありますが、オイカワは出雲平野の水路に多く生息し、島根半島の川では主に下流側にすんでいます。これに対してカワムツは、下流から上流まで広くすんでいます。

生息状況の変化：^{じょうききょう}前回と今回を比べると、特に変化はありません。見つかる場所も数も多いです。

ドンコ



分類：スズキ目^{もく}ドンコ科^か

特徴：体長は2-20cm。頭の大きな魚です。口も大きく、下のアゴが突き出^つています。体の色や模様^{もよう}は、水の底にある石の色に良く似^にています。

生態：川や水路など、流れのある場所にすみます。石の多い場所を好み、石の下や石垣^{いしがき}の隙間^{すきま}などに隠^{かく}れます。肉食の魚で、水生昆虫や甲殻類、小魚などを食べます。

生息状況の変化：前回^{じょうきょう}と今回^{くら}を比べると、特に変化はありません。見つかる場所も数も多いです。島根半島の川では、ドンコは、カワムツと並^{なら}んでよく見ることのできる代表的な魚です。

トノサマガエル



もく か
分類：カエル目アカガエル科

とくちょう
特徴：体長は3-10cm。後ろ足が長く、指の間には大きなヒシがあります。

せなか まだらもよう
背中は斑模様があり、真ん中に緑色の線があります。

せいたい
生態：主に田んぼや水路、池などにすむカエルですが、島根半島では川でもよく見つかります。水辺や地面に暮らすカエルで、木に登ることはありません。オタマジャクシは流れのない場所で育ちます。川にいるトノサマガエルは、水辺に集まる昆虫を食べていると考えられます。

じょうきよう くら
生息状況の変化：前回と今回を比べると、特に変化はありません。見つかる場所も数も多いです。

ニホンイシガメ

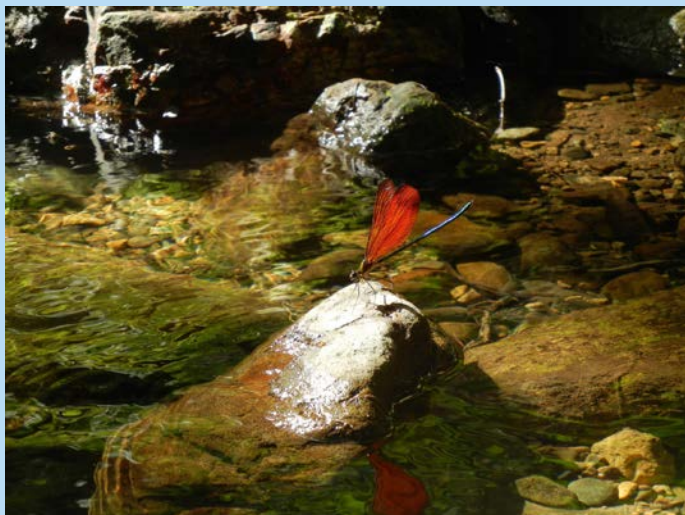


分類：もく か
カメ目イシガメ科

特徴：とくちょう こうちょう
甲長は10-20cm。こうら 後ろ側は、ふち 縁がとがっていて、ギザギザとした形になっています。こうら 甲羅の色は黄土色であることが多く、黒い模様があります。

生態：せいたい
川や水路など、流れのある場所のほか、池にもすみまします。動物も植物も食べる雑食性です。天氣が良い日には、岸辺で日光浴をします。人の気配を感じると、すぐ水の中にに逃げてしまいます。

生息状況の変化：じょうきょう
前回と今回を比べると、特に変化はありませんが、もとと見つかる場所は少ないです。最近では外来種であるミシシippアカミガメもふが増えていますが、島根半島の川では見つかりませんでした。



ミヤマカワトンボ

島根半島の川の生きものたち
～平田・大社・出雲地域の自然環境調査～

発 行 出雲市 経済環境部 環境政策課
〒693-8530 出雲市今市町70
TEL 21-6989/FAX 21-6597
協 力 ホシザキグリーン財団(調査受託)
印刷所 株式会社 報光社